

学校評価のあり方、評価マニュアルの策定

1. 事業の実施報告

(1) 実践研究のねらい

矢掛町教育委員会は平成18年度・19年度の2年間、学校関係者評価の研究に、続けて平成20年度・21年度の2年間、第三者評価の研究に取り組んだ。この4年間の研究で、組織的・継続的に学校運営を改善する学校評価の仕組みを構築することができた。今年度は今までの研究を生かして、学校評価の中に第三者評価の視点を入れた学校関係者評価の在り方について研究したいと考えた。

学校運営や教育活動の改善を図るため、今後の評価活動に生かせる具体的なマニュアルづくりにも取り組みたいと考えた。

(2) 実践研究の実施状況

評価研究委員会（大学関係者7名、教育行政関係者5名、地域関係者2名、小中学校長8名、教頭2名）と評価委員会（大学関係者7名、地域関係者4名）、作業部会（大学関係者2名、教育関係者1名、地域関係者1名、小中学校長2名、教頭2名）の3つの部会を設け、本研究を推進している。

評価研究委員会は、期間中5回開催した。評価委員会は10回、作業部会は2回開催した。また、必要に応じて臨時の委員長・副委員長会議を開いた。9月9日～10日には宮崎県五ヶ瀬町で視察研修を行った。

町内全8校で行う評価の試行は、10月27日の川面小学校を皮切りに12月8日の三谷小学校まで計画通りに行った。評価実施後は、各校とも評価リーダーから評価報告書の手交を実施した。

10月17日には、教員研修センター主催の「学校評価指導者養成研修」において矢掛町の取組を事例発表した。また、12月14日には、文部科学省主催の「学校評価推進協議会」において事例発表を行った。

3月には成果報告書を県内全小中学校及び関係機関等に配付した。また今までの研究成果を「学校評価やかげバージョン」のリーフレットにまとめ、前述成果報告書とともに配付した。町内全教職員にも配付し、来年度以降の評価活動に活用できるようにした。

2. 実践研究の成果

○報告書様式を決定することができた。

より改善に資する学校評価、より負担感の軽減を図るために評価書の様式を定めた。PDCAサイクルがより明確になるように矢印を入れたり、「分析・改善方策」や「来年度の重点・方針」の欄を設けたりした。

○「学校評価やかげバージョン」を作成することができた。

今後の評価活動に生かせる具体的なマニュアル「学校評価やかげバージョン」を作成し、町内の教職員に配付し、来年度以降活用することができるようにした。

○今後の専門評価（第三者評価）についての方向性を定めることができた。

今年度町内8校で評価の試行を行う際に、4校はA型（学校関係者評価の評価者の中に、学校運営に関する外部の専門家を加え、学校関係者評価と第三者評価の両方の性格を併せ持つ評価を行う）4校はU型（学校運営に関する外部の専門家を中心とする専門チームを編成し、評価を行う）〔学校評価ガイドラインより〕を実施し、アンケート調査を実施し検証した結果、毎年1回1名の専門評価委員に評価項目を限定した評価が有効であるとの結論に至った。また、一方で数年に1回数名の評価チームによる評価を望む声も多かったため、矢掛町学校関係者評価委員設置要綱を改正し、基本的には毎年1回の専門評価、学校と教育委員会が必要と判断した場合は専門家チームによる第三者評価を実施できるようにした。

3. 今後の取組予定

成果報告書と「学校評価やかげバージョン」をホームページ上で広く公表したいと考える。また、来年度はコミュニティ・スクールの調査研究に取り組みたいと考える。

○「学校力」を培う学校評価 矢掛町の第三者評価・専門評価

はじめに 矢掛町教育委員会 委員長 石井三千代

I 研究の概要

1 第三者評価・専門評価の動向 第三者評価・専門評価の今後のあり方を探る

倉敷芸術科学大学 教授 小山悦司

2 研究の目的・内容・経過 矢掛町に適した学校評価システムの構築

矢掛町教育委員会 指導主幹 岡野浩美

II 実践校における研究の概要及び成果と課題

1. A型実践校

(1) 矢掛町立矢掛小学校

1) 研究の概要及び成果と課題 プロジェクトチームが一丸となって推進する元気な学校づくり—教育活動の質を高める専門評価とともに—

矢掛町立矢掛小学校 教頭 大西和子

2) 専門評価委員による考察 自己評価、学校関係者評価、第三者評価の新たな在り方を探る専門評価の試み

川崎医療福祉大学 准教授 諏訪英広

(2) 矢掛町立三谷小学校

1) 研究の概要及び成果と課題 専門評価で教師力を高め、元気な学校づくり—自己評価・学校関係者評価・専門評価を教育課程編成に生かす—

矢掛町立三谷小学校 教頭 蜂谷真治

2) 専門評価委員による考察 自己評価、学校関係者評価及び専門評価の相互補完を



意図した学校評価の試み

岡山大学 准教授 高瀬淳

(3) 矢掛町立川面小学校

- 1) 研究の概要及び成果と課題 専門評価で学校力アップ—家庭や地域とつながる学校づくりの推進—

矢掛町立川面小学校 教頭 服部温人

- 2) 専門評価委員による考察 学校の実情を見つめた教育の構築とその評価

岡山県立大学 教授 福本昌之

(4) 矢掛町立小田小学校

- 1) 研究の概要及び成果と課題 学校力・教師力を高める学校評価—専門評価で教師や学校を元気にする—

矢掛町立小田小学校 教頭 小田美津子

- 2) 専門評価委員による考察 学校関係者評価の新基軸！！—小田小学校で専門評価試行—

倉敷芸術科学大学 教授 小山悦司

2. U型実践校

(1) 矢掛町立美川小学校

- 1) 研究の概要及び成果と課題 学校の教育力を高め、開かれた学校づくりに生かす専門評価

矢掛町立美川小学校 教頭 服部英文

- 2) 専門評価委員による考察 客観性の高い学校関係者評価を踏まえた専門評価の在り方

岡山大学 准教授 高瀬淳

(2) 矢掛町立山田小学校

- 1) 研究の概要及び成果と課題 専門評価でより広い視点から取組を見直す—学校運営の客観性と教職員のやる気を高める—

矢掛町立山田小学校 教頭 山本公孝

- 2) 専門評価委員による考察 めざすは有用感・達成感のある学校評価—山田小学校の挑戦—

倉敷芸術科学大学 教授 小山悦司

(3) 矢掛町立中川小学校

- 1) 研究の概要及び成果と課題 専門評価によって日々の教育活動に自信と明るい見通しを！—学校改善の着実な歩み—

矢掛町立中川小学校 教頭 川上雄二

- 2) 専門評価委員による考察 U型専門評価の意義と課題、今後の可能性

岡山学院大学 専任講師 金川舞貴子

(4) 矢掛町立矢掛中学校

- 1) 研究の概要及び成果と課題 専門評価で学校力の向上—教職員が主体的に自信を持って教育活動に取り組むために—

矢掛町立矢掛中学校 校長 川上公一

2) 専門評価委員による考察 学校主体の評価支援を考える

中国学園大学 専任講師 高木亮

Ⅲ 研究の成果と課題

1 アンケート調査の結果と考察 総じて肯定的に評価された専門評価試行

川崎医療福祉大学 准教授 諏訪英広

中国学園大学 専任講師 高木亮

2 専門評価委員として

(1) 地域の教育専門家① 矢掛町子育て支援センター 片山圓

(2) 地域の教育専門家② 矢掛町文化財保護委員 小川大右

(3) 地域住民 スクールサポーター 岩崎恭子

3 学校関係者評価委員として 先進的な学校評価事業に携わって—学校関係者評価委員の立場から—

岡山大学 准教授 尾島卓

Ⅳ 第三者評価・専門評価の今後の展望

1 本町における第三者評価・専門評価の今後の展望 —より有意義で、改善に資する専門評価の展開を日指して—

岡山県立大学 教授 福本昌之

2 本町の実践が岡山県に示唆するもの

岡山県総合教育センター 指導主事 圓橋義則

おわりに

矢掛町教育委員会 教育長 武泰稔

○学校評価「やかげバージョン」(リーフレット)



(参照) 矢掛町教育委員会「学校評価」

<http://www.town.yakage.lg.jp/kyouiku/kyouiku.html>